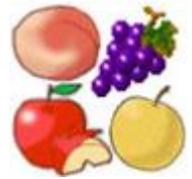


令和4年度 果樹情報 第15号

(令和4年10月21日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (10月前半、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が19.6℃で平年より1.8℃高く、2半旬が13.4℃で平年より2.8℃低く、3半旬が16.2℃で0.3℃高く経過しました。

この期間の降水量は44.5mmで平年比72%と平年並、日照時間は53.2時間で平年比70%と平年よりも少なくなりました。

2 土壌の水分状況

10月15日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.1、深さ40cmで2.1、深さ60cmで2.4となっており、適湿の状態です(図1)。

(深さ40cmは6月1日から6月15日、7月24日から31日までデータ欠損)

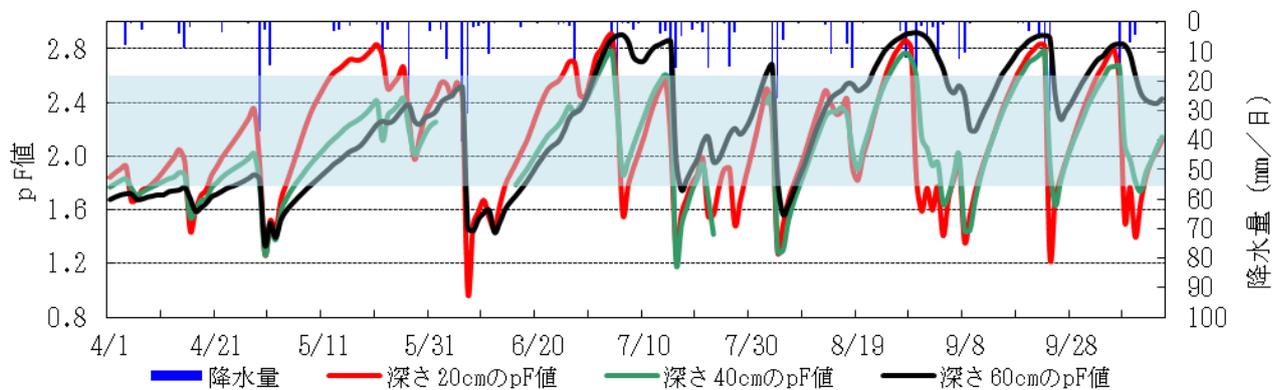


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6)

3 発育状況 (10月19日現在、果樹研究所)

(1) なし

ア 収穫状況

「ラ・フランス」の収穫盛期は10月4日と平年並で、昨年より5日遅くなりました。

果実の大きさは319gで平年よりやや大きく、糖度は13.3° Brixで平年並でした(表1)。

表1 なしの収穫状況

品種		収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸	水	8/23	8/24	8/16	8/27	8/29	8/21	9/1	9/4	8/26	447	382	413	11.6	12.5	11.6
豊	水	9/8	9/12	8/30	9/15	9/17	9/7	9/20	9/24	9/13	513	423	430	12.6	12.9	12.5
二十世紀		9/12	9/17	9/7	9/13	9/21	9/7	9/14	9/25	9/7	507	402	452	10.5	11.1	10.4
あきづき		9/21	9/25	9/15	9/26	9/28	9/18	9/29	10/3	9/21	549	462	514	12.8	13.0	12.5
ラ・フランス		10/4	10/4	9/29	10/4	10/4	9/29	10/4	10/7	9/29	319	294	332	13.3	12.9	12.4

注) 平年値は、1991~2020年の平均。

(2) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が88.7mm(平年比108%)、横径が92.7mm(平年比104%)で平年よりやや大きい状況です。満開後日数による比較では平年より大きくなっています。

イ 成熟状況

「ふじ」の満開後 177 日（10 月 19 日）における成熟調査の結果は、果実硬度が 12.0 ポンドと平年より低く、デンプン指数が 4.2 と平年並となっています（図 2、3）。果皮中クロロフィル含量は平年よりやや高く、果皮中アントシアニン含量は平年より低い状況です（図 4、5）。

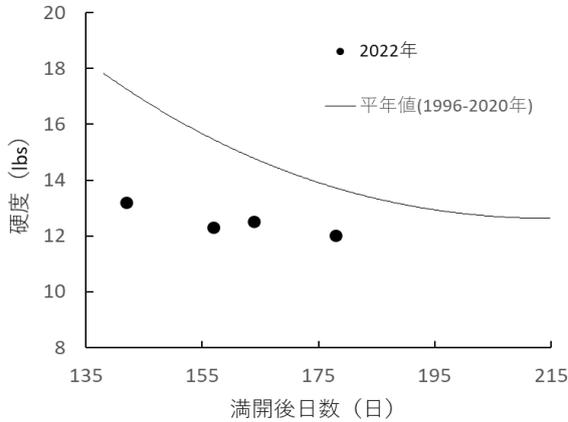


図 2 「ふじ」の果実硬度の推移

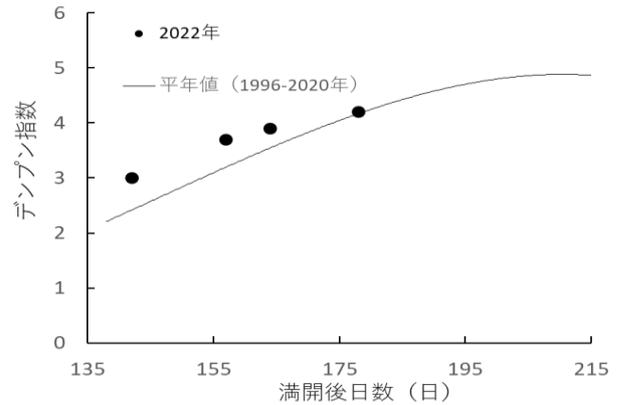


図 3 「ふじ」のデンプン指数の推移

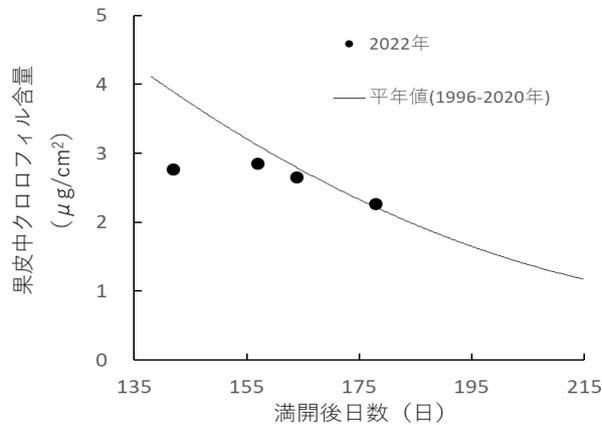


図 4 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

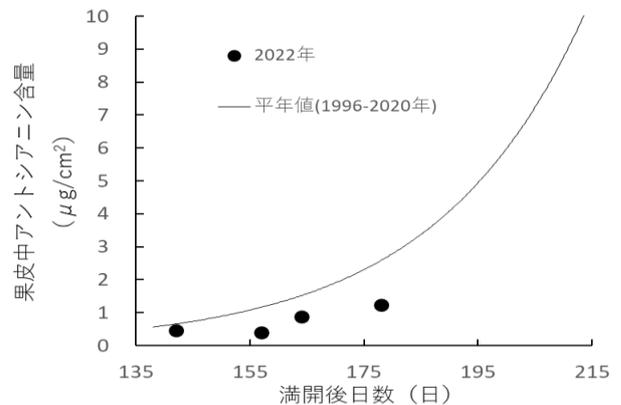


図 5 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

10 月 19 日現在（満開後 177 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は 16.7%、内部裂果発生率は 26.7%と過去 3 年間と比較して少ない傾向となっています（表 2）。

表 2 「ふじ」の満開後 177 日頃における裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2022年	2021年	2020年	2019年	2022年	2021年	2020年	2019年
ふじ/マルバ台	20	16.7	26.7	40.0	10.0	26.7	50.0	63.3	53.3

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 栽培上の留意点

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

摘葉、玉回しは遅れないように実施しましょう。

イ 「王林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るため、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から 2～3 回に分けて収穫しましょう。収穫適期は、果皮色が全体に黄色味を帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の時です。果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低くなるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

ウ 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

今後の降雨により新梢への感染が懸念される状況にあるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。3回目の秋期防除をまだ実施していない場合は、降雨前の防除を心がけましょう。

薬剤は4-12式ボルドー液、又はICボルドー412を30倍で使用するか、クレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、又はクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用して、十分量を散布しましょう。

イ ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出(図6)が多くなる時期(昨年の果樹研究所では10月中旬～11月上旬)となります(図7)。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回散布(キャプタンの総使用回数に注意)し、最終散布は落葉率80%頃を目安に実施します。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

なお、10月12日時点で、果樹研究所内の「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は15.3%です。今後さらに芽の露出が増加するものと見込まれるため、気象情報に留意して適期に薬剤散布を実施しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織(枠内)

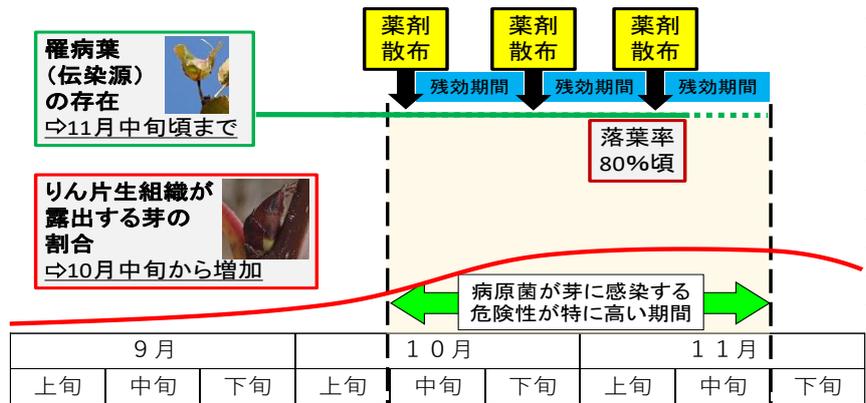


図7 ナシ及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>